

1 調査概要

本調査は、第3次飯南町総合振興計画・第3期飯南町総合戦略の策定にあたり、町民の飯南町の生活に対する幸福度・満足度、生活の中での実感等について、地域のWell-being（地域幸福度）の向上を図る指標として、活用が推進されている「LWC指標」を用いたアンケート調査により把握し、計画の基本方針や施策の立案に向けた基礎資料とすることを目的とする。

■回答者属性

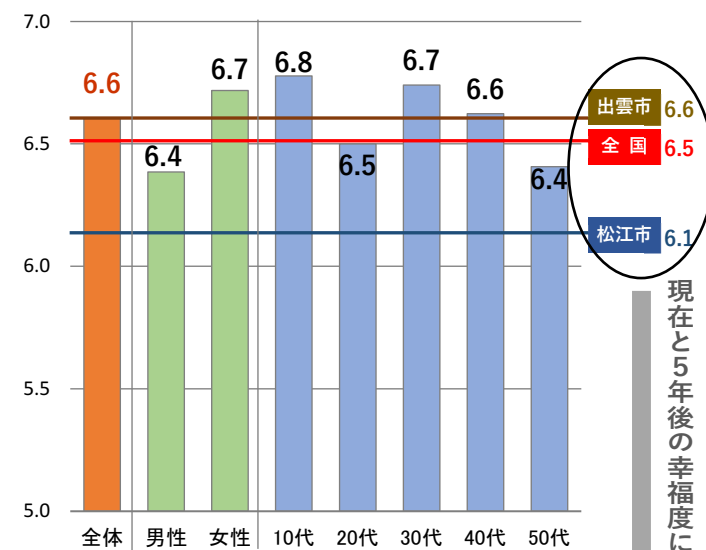
調査期間	令和5年10月1日～令和5年10月15日	年代	回答数	割合	地区	回答数	構成比
調査対象	町内在住の18歳～59歳の男女	10代	9	4.0%	赤名	51	22.9%
標本数	500人	20代	24	10.8%	谷	10	4.5%
抽出方法	住民基本台帳の対象年齢層から無作為抽出	30代	54	24.2%	末島	59	26.5%
調査方法	郵送配布、郵送回収・Web回答	40代	77	34.5%	頓原	75	33.6%
有効回収数	223件（回収率44.6%）	50代	54	24.2%	志々	20	9.0%
		無回答	5	2.2%	無回答	8	3.6%
		合計	223	100.0%		223	100.0%

2 調査結果

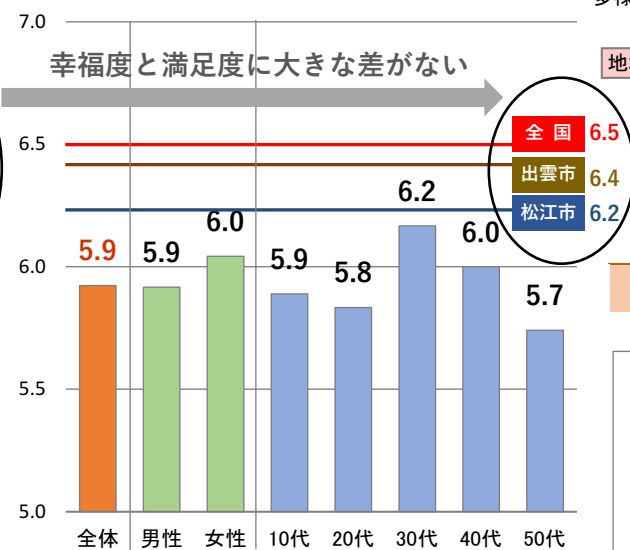
(1) 飯南町での生活に対する幸福度・満足度

- 飯南町での暮らし幸福度は全国平均・松江市より高く、出雲市と同等の値になっている。
- 一方で、暮らしの満足度は、全国平均・松江市・出雲市の値を大きく下回っている。
⇒「飯南町での暮らしに満足はしていないが、幸せを感じている」

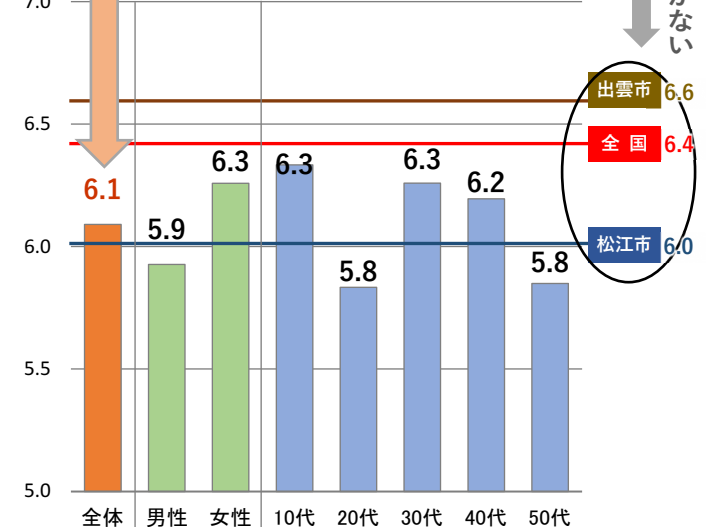
①現在の暮らしの幸福度（10点満点）



②現在の暮らしの満足度（10点満点）



③5年後の幸福度（10点満点）

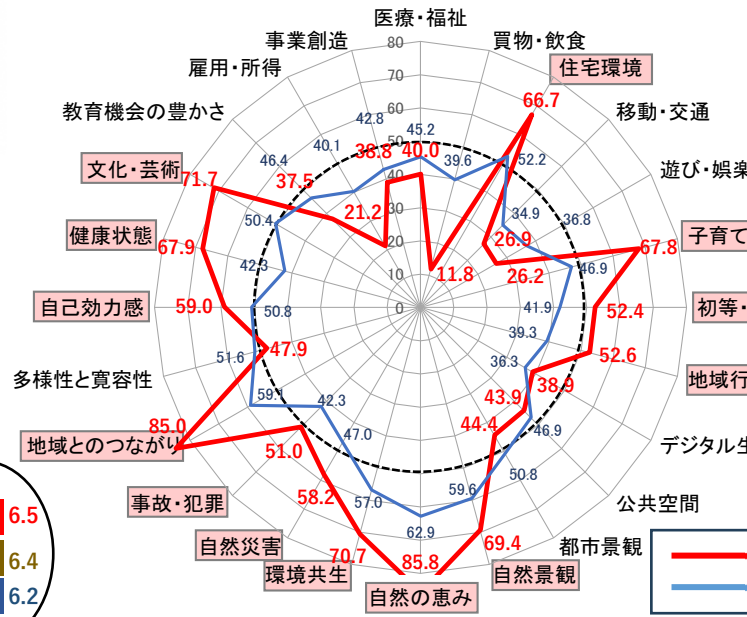


- 飯南町の幸福度は、5年後は現在より0.5減少。
- 一方で、全国平均・松江市は0.1の減少、出雲市では差がない。
⇒飯南町では、将来の生活を懸念し、現在より幸福度は下がると思う住民が多い
⇒松江市や出雲市では、今と同じくらいの幸福が続いていると考える住民が多い
⇒将来の幸福度が下がらないよう、生活の満足度を向上させる必要がある
- 20代の減少幅が0.7と最も大きい。

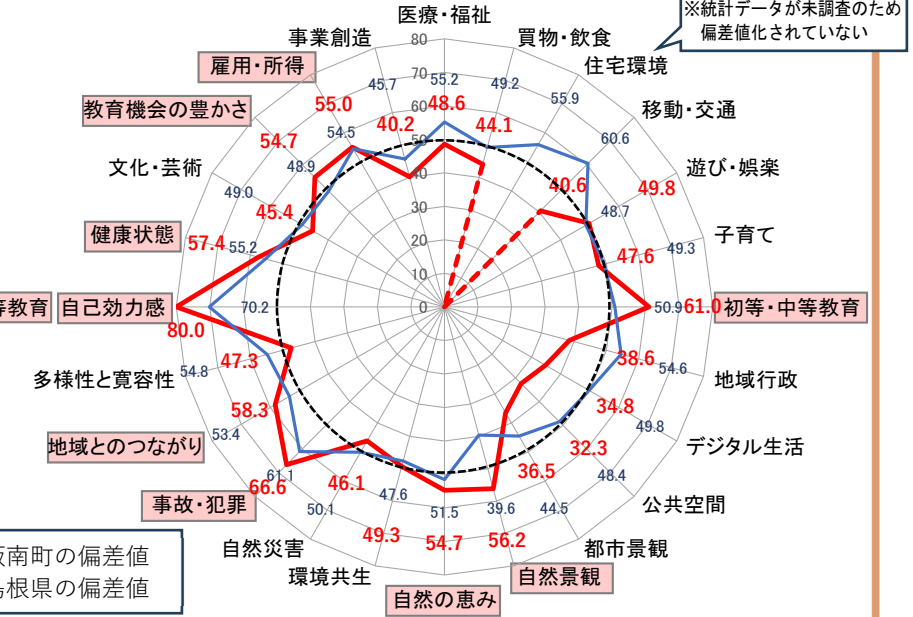
(2) 飯南町での生活に対する町民の主観評価と統計データからみた客観評価

- 【主観評価】把握した町民の生活に対する評価を、同様の調査をした自治体のデータを基に偏差値化したもの(偏差値50が全国平均)
 - 優れていると認識されているものは、自然・環境、地域とのつながり等。一方で、日常生活に関わるもの（医療・福祉、買物、移動、娯楽）と雇用の評価が低い。
- 【客観評価】全市町村を対象にデジタル庁が調査した様々な統計データを基に偏差値化したもの(偏差値50が全国平均)
 - 客観的に優れているものは、教育、自然、防犯、地域とのつながり、健康、雇用・所得。一方で、こちらも日常生活に関わるもの（医療・福祉、買物、移動）の評価が低い。特に移動・交通は島根県と比較しても20ポイントの差がみられる。

④飯南町での生活に対する町民の主観評価



⑤飯南町での生活に対する統計データからみた客観評価



(3) 町民の主観評価と統計データからみた客観評価の相関図

- 【A領域】にある因子は、客観的にも全国平均より優れ、町民の評価も高い因子です。
- 【D領域】にある因子は、客観的にも全国平均より劣り、町民の評価も低い因子であり、住民の幸福度向上のために取り組みが必要と思われるものになります。

【A】 優れている	自然景観、自然の恵み、初等・中等教育、事故犯罪、地域とのつながり、自己効力感
【B】	環境共生、子育て、自然災害、地域行政、文化芸術
【C】	教育機会の豊かさ、雇用・所得
【D】 課題が多い	医療・福祉、買物・飲食、遊び・娯楽、公共空間、デジタル生活、都市景観、事業創造、多様性と寛容性

※客観評価で「子育て」が低い、「雇用・所得」が高い理由
・客観評価を算出する指標が飯南町の「子育て環境の良さ」を評価できないものになっているため
・「雇用・所得」は、所得だけでなく、失業率・高齢者有業率など雇用の安定性も評価しているため

